

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 国立大学法人 群馬大学

1 事業の趣旨・目的

本事業は、日本語ボランティアとして活動する人々のブラッシュアップを目的とし、授業観察、教育実習等を行いながら、実践的な能力のさらなる向上を目指すものであった。また、現在は初級レベルでのボランティア活動が中心と考えられるが、今後のレベルの多様化を視野に入れ、中級レベルでの実習、会話、作文等の技能別のクラスでの実習なども取り入れ、日本語ボランティアの多様化に対応できる人材の育成を目標とした。

2 企画委員会の開催について

【概要】

本年度は事業委嘱後、講座開始までに講座内容、周知方法等の打ち合わせで 2 回、また講座開始時及び終了時に、企画委員による委員会を開催した。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
10/1	群馬大学国際教育研究センター・会議室	牧原功 園田智子 俵山雄司 竹島恒 平岡奈美	・講義内容の検討 ・実施時期・回数の検討 ・受講者の条件の検討 ・周知方法の検討	委嘱事業を実施するにあたっての講義のシラバスを検討し、あわせて参加者募集の方法について検討した。
10/22	群馬大学国際教育研究センター・会議室	牧原功 園田智子 俵山雄司 竹島恒 牧野文成 平岡奈美	・周知用ポスターの検討 ・群馬県観光国際協会主催の日本語ボランティア講座との連携について	周知用のポスターの検討を行い、また県観光国際協会主催の日本語ボランティア講座に本委嘱講座の一部を開放することを合意した。
11/26	群馬大学国際教育研究センター・会議室	牧原功 園田智子 俵山雄司 竹島恒 牧野文成 平岡奈美	・実習指導の方法について ・修了要件の検討 ・修了証発行について	実習を行うにあたっての留意事項を検討し、あわせて、修了要件をどうするかについて話し合い、事業終了後、群馬大学から修了証を発行

				することとした。
2/18	群馬大学国際教育研究センター・会議室	牧原功 園田智子 俵山雄司 竹島恒 牧野文成 平岡奈美	・講座についての評価、問題点などの検討	全講座の修了後、受講者のアンケートを元に、成果及び反省点について検討した。

※なお、今年度の企画会議については委員の意向により謝金等の支出はなかった。

3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名 群馬県内日本語ボランティアのための実践的長期研修講座

(2) 研修の目標

群馬県内の市町村の国際交流協会において外国人のための日本語ボランティアに従事している者を対象とし、各地域での指導的立場に立てる人材の育成を目指す

(3) 受講者の総数 25 人

(4) 開催時間数(回数) 24 時間 (12 回)

(5) 参加対象者の要件

群馬県内に居住する方で、日本語教師、日本語ボランティアとしての活動経験が1年以上あるか、大学やその他の機関において日本語教育の勉強をしたことがあり、その経験を今後活かしていきたいと思っている者

(6) 受講者の募集方法

群馬県観光国際協会から、県内各市町村の国際交流協会等に周知した。また、県観光国際協会主催のボランティア養成講座の修了生宛に周知を行った。

(7) 研修会場

ア 講義:群馬大学国際教育・研究センター 講義室

イ 実習:群馬大学国際教育・研究センター 講義室、ゼミ室

(8) 使用した教材・リソース

講座においては担当講師が資料を作成し、各回毎に配布した。

実習においては、授業で使用する教材を用いた。

「みんなの日本語初級Ⅰ」「みんなの日本語初級Ⅱ」「中級へ行こう」

「日本語を話すトレーニング」及び講師作成の教材

(9) 講座内容

講義

回	日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
①	11/26 19:00	コースオリエンテーション コースの目的・講師紹介・実習説	牧原功 園田智子	14人

	～ 21:00	明・グループ分け・アンケート	俵山雄司 田中香織 井之川睦美 萩原孝恵	
②	12/3 19:00 ～ 21:00	テーマ：文法項目の教え方 1 ある文法項目の教え方について取り上げ、難しさの原因を探り、効果的な教え方を考える	俵山雄司	20人
③	12/10 19:00 ～ 21:00	テーマ：文法項目の教え方 2 ある文法項目の教え方について取り上げ、難しさの原因を探り、効果的な教え方を考える	牧原功	20人
④	12/17 19:00 ～ 21:00	テーマ：教材・教具を考える 1 活動内容：ある文法項目を取り上げ、効果的な教え方をするための教材・教具を実際に作成し、クラスでシェアする	園田智子	18人
⑤	12/24 19:00 ～ 21:00	テーマ：教材・教具を考える 2 活動内容：ある文法項目を教える際に、既存の教材・教具をどのように利用できるのか考える	田中香織	18人
⑥	1/7 19:00 ～ 21:00	テーマ：会話の指導 1 日常会話におけるシラバスにはどのようなものがあるのか。また教科書にはそれがどのように使われているのか考える	井之川睦美	22人
⑦	1/14 19:00 ～ 21:00	テーマ：会話の指導 2 活動内容：話す力とはなにか？OPIの実際を見ながら、会話能力とはどのようなものか考える	萩原孝恵	20人
⑧	1/21 19:00 ～ 21:00	テーマ：教材・教具を考える 3 活動内容：日本語の授業に利用できるリソースにどのようなものがあるか考える。	田中香織	13人
⑨	1/28 19:00	テーマ：学習者の誤用をどのように訂正するか	牧原功 俵山雄司	15人

	～ 21:00	作文を例にして、学習者の誤用をどのように、どこまで訂正すればよいのかを考える		
⑩	2/4 19:00 ～ 21:00	テーマ：文型の導入を考える・実習を振り返る 1 例：導入の優れ技・コミュニケーション練習を増やす・学習者に主導権を渡す学習法・能力差の混在をどう解決するかなど	牧原功 田中香織	14人
⑪	2/11 19:00 ～ 21:00	テーマ：文型の導入を考える・実習を振り返る 2 例：導入の優れ技・コミュニケーション練習を増やす・学習者に主導権を渡す学習法・能力差の混在をどう解決するかなど	園田智子	8人
⑫	2/18 19:00 ～ 21:00	テーマ：シラバスデザインを組む クラスのシラバスデザインを作ってみる	園田智子 俵山雄司	12人

実習指導

回	日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
①	11/26 18:00 ～ 19:00	実習オリエンテーション	牧原功 園田智子 俵山雄司 田中香織 井之川睦美 萩原孝恵	14人
②	12/2 16:00 ～ 17:00	実習指導	井之川睦美	3人
③	12/4 14:00 ～ 15:00	実習指導	高橋祐輔	4人

④	12/9 16:00 ~ 17:00	実習指導	井之川睦美	4 人
⑤	12/11 14:00 ~ 15:00	実習指導	高橋祐輔	4 人
⑥	12/16 16:00 ~ 17:00	実習指導	井之川睦美	3 人
⑦	12/18 14:00 ~ 15:00	実習指導	高橋祐輔	4 人
⑧	1/6 16:00 ~ 17:00	実習指導	井之川睦美	4 人
⑨	1/7 13:50 ~ 14:50	実習指導	田中香織	5 人
⑩	1/9 16:00 ~ 18:00	実習指導	吉田好美	2 人
⑪	1/14 13:50 ~ 14:50	実習指導	田中香織	5 人
⑫	1/21 13:50 ~ 14:50	実習指導	田中香織	4 人

⑬	1/23 16:00 ～ 18:00	実習指導	吉田好美	2人
⑭	1/28 13:50 ～ 14:50	実習指導	田中香織	4人
⑮	2/5 13:50 ～ 14:50 16:40 ～ 17:40	実習指導	高橋祐輔	3人

※実習指導は群馬大学で開講している外国人留学生対象の日本語クラスで実習をするにあたり、授業の前後で教案の作成や授業の振り返りを行ったものである。なお、上記時間には、実際に受講者が実習を行った時間などは含まれていない(群馬大学の授業時間であり、謝金の発生等は生じていない)。

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

受講生からの評価は好評であり、講座・実習ともに有益であるとする声が大きかった。しかしながら、講座に、すぐにボランティア活動で使える内容ではないものも含まれているという意見も少数ながら見られた。講座を構成するにあたっての方針や意図を理解してもらえるよう、より一層の努力が必要であると感じた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

講座については、企画当初の方針に従って、充実した内容を提供できたと考える。しかしながら、ボランティア活動の様子をビデオ撮影し振り返り、経験を共有するという活動ではビデオ撮影に協力してくれる受講者が少なく、群馬大学内での実習ビデオを用いた活動に変更せざるを得なかった。どのようにして参加者に自らのボランティア活動の様子を提供してもらうかは今後の検討課題である。

実習は概ね順調に進めることができたが、実習生として授業に受け入れる担当講師との連絡などが不十分だった点もあり、今後はより綿密な計画を作成する必要がある。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

平成21年度も、文化庁のボランティアを対象とした実践的研修に応募している。これは、今後の事業の自立化を進めることを目的としたもので、今年度の事業の実施にあたっては、大学のリソースを活かしての日本語ボランティア育成のプログラム化、システム化を目標とし、ノウハウを確立することを目的としている。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

群馬県観光国際協会主催の「日本語ボランティア研修講座」と連携して講座を開催し、10名の受講生を受け入れた。

② 研修後の人材活用

講座の参加者は、すでに地域のボランティアとして活動しており、今後、本研修講座で得たものを活用し、より一層の活躍が期待される。

(12) 今後の課題

講座及び実習の内容に関しては、日本語ボランティアとしての足腰を鍛えるという意味で、実践的な内容と理論的な内容とがバランスよく配置され、受講者にとって有益なものであったと考える。しかし、受講者の1割程度は、もっとノウハウ的な、すぐに役立つものが重要だと考えていることが事業実施後のアンケートで判明した。今後は、講座をどのような意図で構成しているかなどの周知・説明のさらなる徹底が必要であると思われる。

また、実習や授業観察に無断で欠席する受講者も少数ながらも存在し、担当する教員が困惑することもあった。受講者は大学の事情を把握しておらず、受講者を指導する教員は大学生をスタンダードとしてとらえているということが原因として考えられ、今後継続的に事業を続けて行くにあたっては、双方の意識を変えていく必要があると感じた。

また、事業実施にあたっての事務組織のあり方も改善すべき点は多く、会計処理などを円滑に進められる体制を作ることが必要であった。